

# 舞鶴市における高大連携と世代間交流の実践

## — 藩校サミット参加・東舞鶴高校授業・文書調査 —

酒向あやか

### 1. 舞鶴市ACTR

文化情報学ゼミでは、2013年から継続して舞鶴市教育委員会・舞鶴地方史研究会他と連携し調査を実施している。2018年度は、舞鶴地方史研究会、全国藩校サミット舞鶴大会実行委員会、東舞鶴高校、京丹後市教育委員会とともに、地域貢献型特別研究（ACTR）「丹後地域の高大連携、世代間交流を核とした文化遺産活用」（研究者代表東昇）を行っている。

### 2. 調査参加者

東昇（教員）、水野拓也（修士1回生）、有賀陽平（4回生）、尾松美早都・酒向あやか・瀨本めぐみ・善積沙耶子・米澤千春（3回生）

### 3. 藩校サミットへの参加

藩校サミットとは、近世、全国260余の藩に設立された藩校をそれぞれの地域に息づく藩校教育の伝統や精神を現代の視点で見直し、次代に活かすことを目的に始められた。第1回は2002年の東京都文京区の昌平坂学問所であり、今回の舞鶴大会を含め16回全国各地で開催されている。

文化情報学ゼミは、2018年9月29日（土）舞鶴市総合文化会館で行われた藩校サミットに参加した。会場では、受付付近に文化情報学ゼミのブースを置き、参加者の方に舞鶴の調査報告を紹介したパンフレットを配り、また歴史学科全体で取り組んでいる文化遺産叢書などを展示した（写真1・2）。また、パンフレットは、表紙のデザインや文章など学生が主体となって作成しており、学生のゼミ活動を知ってもらえる良い機会となった。

パンフレットは持参分がほぼなくなり、舞鶴市民にとって自分の地元についてまとめられている内容に関心があることはもちろん、他府県の参加者は地域との交流を深める要素として歴史が用いられていることに、深い関心を抱かれたようであった。2日目に舞鶴市郷土資料館で行われる予定であった文書調査は台風接近のため、中止となった。

### 4. 東舞鶴高校での高大連携授業

今回のACTRのもう一つの柱である高大連携では、京都府立東舞鶴高校において、①2018年10月22日、②11月12日、③2019年1月21日、④2月18日、いずれも月曜日1・2限で実施した。同校の廣瀬邦彦教諭、金田吉孝教諭のご協力の下、日本史・世界史を学ぶ2

年生 61 人が対象となった。内容は、①近代の桐実生産から舞鶴の村名と産物の特徴、②文政 3 年（1820）「西国巡礼略打道中記」の古文書読解を通して江戸時代の街道・旅の様子、③田辺藩各村の文化 10 年（1813）「作方年中行事」の正月を比較し、当時の年中行事と村での生活の実態、④なぜ歴史を進路にしたのか、であった。いずれもこれまでの A C T R 研究の成果を活かし、舞鶴地域の特徴的な史料・テーマを取り上げた。また授業は、講義よりも大学生と高校生のワークショップに重点を置き、サークルなどの大学生活を語るなど様々な交流ができた（写真 3）。

## 5. 井上家文書調査

A C T R の目的の一つに世代間交流があるが、その実践として 2016 年 12 月から文化情報学ゼミと舞鶴市郷土資料館・舞鶴地方史研究会と協同で文書を調査している（写真 4）。近世近代の余部上地区の井上家文書は、約 3600 点の庄屋・戸長文書である。今年度は 10～2 月に調査を実施している。写真撮影・ラベル・目録作成が終了しており、目録を刊行予定である。また同家文書の山論関係文書を、文化情報学実習において解説した。



写真 1 藩校サミットのゼミブース



写真 2 ゼミ活動紹介の様子



写真 3 東舞鶴高校の授業



写真 4 舞鶴地方史研究会と調査